

【近畿農政局長賞：単位収量の部 農事組合法人ほづ(京都府亀岡市)】

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
北陸193号・とうごう1号	約9.9ha	731kg/10a	180kg/10a(551kg/10a) ※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 平成17年に亀岡市保津町地域8集落の農家333戸が参加して「農事組合法人ほづ」を設立(経営面積約60ha)。
- 31年中山間地域スマート農業実証プロジェクトに取り組む。
- トラクター5台、コンバイン3台、田植機2台、小型汎用コンバイン1台、機械格納庫及び乾燥調製施設を所有。

【作付品目】

- ・主食用米:コシヒカリ・ヒノヒカリ等 26.7ha
- ・飼料用米:北陸193号・とうごう1号 9.9ha
- ・加工用米:京の輝き 3.8ha
- ・WCS用稲:夢あおば 1.8ha
- ・黒大豆・小豆・ビール大麦 9.5ha
- ・野菜等 7.9ha
- 計 59.6ha

【取組のきっかけ】

- 米の需給調整のためビール大麦、白大豆を中心に栽培してきたが、度重なる大雨により、栽培ほ場が冠水したため、収量が安定する飼料用米に変更(平成21年)した。
- 当初「モミロマン」を栽培していたが、年々収量が低下してきたため、令和元年産から「北陸193号」、4年産から「とうごう1号」を栽培。

【取組概要】

- 飼料用米を供給している契約農家の鶏糞を亀岡市農業公社の協力のもと利用している。土づくりとして、3月頃を中心に約0.8トン/10aから2トン/10a散布している。
- また、田植時に国産肥料14-14-14を25kg/10aから50kg/10a、出穂前に穂肥として、家畜等の液肥を4トン/10a流し込み施用と国産肥料14-14-14を30kg/10aから50kg/10aを施用するなど、ステージに応じたきめ細かい肥培管理により単収向上を図っている。
- 田植時に育苗箱施用剤と除草剤散布を同時に行うとともに、いもち病・ウンカ類等の被害軽減のためドローンによる防除により防除コストを削減している。



京都府

